

八乙女の舞【白鷹町】



八乙女の舞

日時：8月15日、16日
場所：八乙女八幡神社

八乙女の舞は、白鷹町荒砥地区で大切に受け継がれてきた伝統芸能です。毎年8月15・16日に
行われる八乙女八幡神社の例大祭において、荒砥小学校の5、6年生の女子児童によって八乙女の
舞が奉納されます。

■八乙女の舞とは

白鷹町の八乙女八幡神社には、平安時代後期に、源義家が、
京都・石清水八幡宮の分霊を祀り、東征の時の戦勝祈願とし
て、八人の乙女による舞を奉納したという言い伝えがありま
す。

この伝承にちなみ、八乙女の舞は、平成2年に荒砥町町制
施行100周年記念事業のひとつとして、装いを新たに復活さ
せたもので、現在、荒砥地区公民館事業の一環として活動し
ています。

八乙女の舞は、今年で23周年を迎え、白鷹町荒砥地区で
大切に受け継がれてきました。



前夜祭での「八乙女の舞」披露

舞は、神社本庁において制定された「豊栄の舞」という巫女舞を、「八乙女の舞」として披露し
ています。舞姫たちは、毎年募集をして、荒砥町立荒砥小学校の5年生、6年生の女子児童が舞っ
ています。代々、荒砥小学校の先輩から後輩にその伝統を受け継いできました。

八乙女の舞を伝えた子どもたちの数は、平成2年から数えると100人以上といわれます。この八
乙女の舞を後世まで伝えるべく、地域を挙げて後押ししています。

■八乙女八幡神社の例大祭「八乙女の舞」

平成25年8月16日（金）に行われた八乙女八幡神社の例大祭において、白鷹町立荒砥小学校の
5・6年生の女子児童によって、八乙女の舞が奉納されました。

今年は5年生5名、6年生2名の7名で構成されています。本来は、8人で舞う舞ですが、参加児
童の数は毎年異なるそうです。

7人は、新野早苗さん（飯豊町手ノ子八幡神社禰宜）の指導のもと、5月から練習を行ってきました。6年生は5年生を指導し、5年生は6年生を見習い、舞姫としての心構えなどを身に付けます。



八乙女八幡神社へ参進する舞姫ら

◆八乙女の舞

日時：平成25年8月16日（金）

場所：八乙女八幡神社（白鷹町荒砥地区）

例大祭の前に舞姫など行事に関わる者は、神事を行い、お祓いを受け拝殿へ向かいます。拝殿内へ移動し、ご祈祷後に八乙女の舞が奉納されます。

舞姫らが拝殿に入り、八乙女の舞が奉納されます。拝殿では、舞姫7人が4人1組となり、舞を披露しました。一組目、二組目と舞が奉納されます。

美しい袴に千早を身にまとった舞姫たちは、右手には榊（さかき）を持ち、優雅に清らかに舞っていました。



「八乙女の舞」奉納

八乙女の舞は、『豊栄舞の歌』の曲に合わせて、ゆったりとしたテンポで舞われます。

一見、動きは単調ですが、動きがゆったりであるほど、舞を揃えるのは難しくなります。

同じ動きの繰り返しでも、4人で息を合わせ、立ち位置や全体の動きを頭に入れながら舞う必要があります。



「八乙女の舞」奉納

八乙女の舞の巫女衣装には、白鷹町の「深山和紙（みやまわし）」で作ったまゆ花を髪飾りとして使っています。

15日前夜祭と16日例大祭では、それぞれ違う種類を使い、髪に飾ります。



前夜祭で使用したまゆ花

八乙女の舞は、参加する女子児童や指導者、舞を支え続けてきた地域の方々の協力により、大切に守られています。この由緒ある八乙女の舞に参加することは、子どもたちにとって素晴らしい体験と思い出となり、大人になっても宝物になることでしょう。八乙女の舞がこれから先も続いていくことを願っています。



例大祭で使用したまゆ花



○取材協力 新野早苗さん（飯豊町手ノ子八幡神社禰宜）
 白鷹町立荒砥小学校（鈴木雄次校長）
 八乙女八幡神社（白鷹町）
 荒砥地区公民館（白鷹町）

○取材・執筆編集 置賜文化フォーラム編集員 佐藤道代